

1 下関市立小月小学校の社会見学を活用した消費者教育授業の実践事例

◇ 消費者教育授業の実践事例 第5学年 家庭科「めぞそう買い物名人」

1 学校名・職氏名

下関市立小月小学校 教諭 重枝 孝明

2 児童

第5学年 37名

3 学習指導案

(1) 題材名

めぞそう買い物名人《家庭科》

(2) 題材の目標

- 買い物の仕組みや消費者の役割、物や金銭の大切さ及び身近な物の選び方、買い方を理解し、購入するために必要な情報の収集・整理が適切にできる。
- 購入に必要な情報を活用し、身近な物の選び方、買い方を考え、工夫することができる。
- 買い物を中心とした消費活動に関心をもつとともに物や金銭を大切にし、よりよい買い物を目指して工夫して活動しようとする。

(3) 単元設定の意図

① 児童観

私たちは、毎日様々な物やサービスを購入して生活している。本校周辺は、スーパーマーケットやコンビニエンスストア、大型ショッピングセンターがあり、本学級の子供も自分の好きな物を小遣いで買ったり、家の人に買ってもらうなどの買い物経験が多い。そのため子供たちは、お菓子やゲームの値段といった自分にとって身近な物の金銭に関する知識はある。しかし、自分の家庭では、どのようなことにお金が使われているのかを考えることは少なく、お金を大切にするように言われていても、その理由や具体的な方法について深く考えてもいない。さらに、「〇〇のゲームソフト」というように、「欲しい物」を買うことが多く、物の購入に際して情報を収集・整理・活用して商品を選択するなどの計画的な購入の経験もあまりない。

② 教材観

時代とともに消費活動のあり方は変化している。現代では、悪質商法や契約の知識不足によるトラブルなど、多くの問題が起きていて、喫緊の課題の一つとして挙げられている。「消費者の権利尊重と保護から自立へ」を目指して2012年に消費者教育推進法が制定され、子供から大人までが消費者教育の対象となった。

また、2020年施行の新学習指導要領では、「消費者教育」の指導内容が充実されている。実際に、ゲームの課金やインターネットでの買い物など、子供たちのすぐそばにも消費者として判断・行動しなければならない場面が迫っている。商品の選び方や買い方について考えることを中心とする消費者教育の視点を取り入れた学習は子供たちにとって価値がある。

社会見学を活用した消費者教育の実践事例①

本単元は、牛乳を教材として取り上げた。それは、給食で毎日飲んでいるだけでなく、ヨーグルトやアイスクリームなどの加工品も多く、子供たちにとってなじみが深い食品だからである。また、スーパー等の店舗には、必ず数多くの牛乳が陳列されていることから、商品選択の幅も広く、本学習に適した素材であると考えた。

③ 指導観

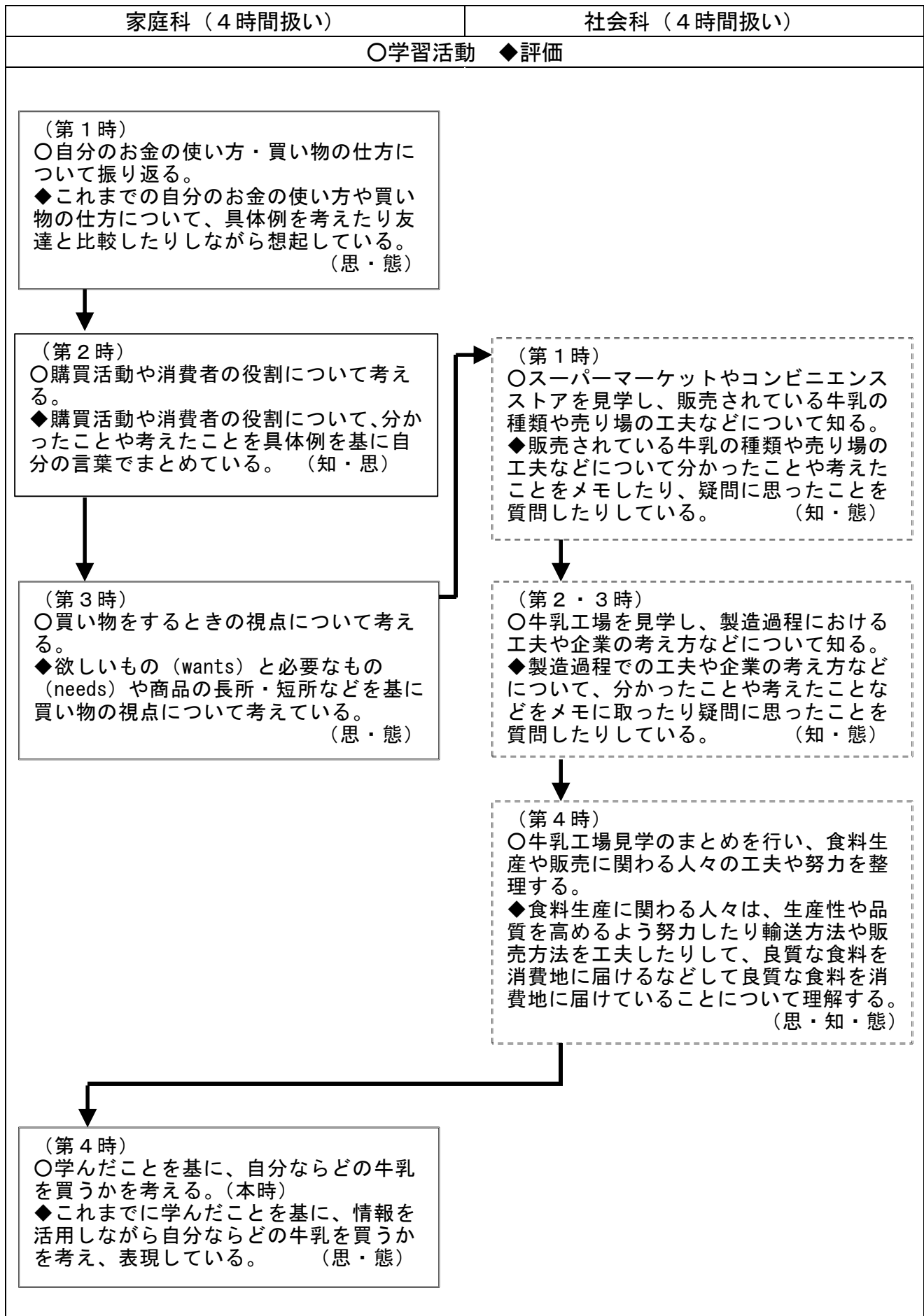
本題材では、以下の手立てを重視する。

- ・社会科で店舗や牛乳工場の見学を行い、消費者と販売者の考え方、販売・生産の工夫や企業の考え方を体験的に知ることによって商品選択の情報を増やすことができるようにする。社会科では、食料生産に関わる人々による生産性や品質を高める努力や輸送方法・販売方法の工夫で良質な食料を消費地に届けていることを学ぶ。また、生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、食料生産に関わる人々の工夫や努力を捉えさせるが、この社会科の学びで得た知識や思考力・判断力等を家庭科の商品の選び方や買い方の学習とつなげることで、学びを実際の生活で生かすことができる。つまり、何のために学ぶかが明確になると考える。
- ・複数の商品を選択したり、自分にとって必要な条件を考えたりする活動を設定することで、商品購入の際の価値判断・意思決定する力を育むことができるようにする。つまり、学習したことを実際の生活に生かすことを意識させた学びとしていく。
- ・家庭における買い物についてのアンケートを取ったり、授業で学習したことを家庭で再度考える課題を出したりすることによって、学習と生活を結び付けるようにする。

(4) 題材の評価規準

	知識及び技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	<ul style="list-style-type: none">・買い物の仕組みや消費者の役割及び物や金銭の大切さと計画的な使い方について理解している。・身近な物の選び方、買い方を理解し、購入するために必要な情報を収集・整理できる。	<ul style="list-style-type: none">・購入に必要な情報を活用し、身近な物の選び方や買い方を社会科見学や生活経験などから考え、工夫している。	<ul style="list-style-type: none">・買い物を中心とした消費活動に関心をもつとともに物や金銭の大切さについて考え、よりよい買い物を目指して工夫して活動しようとしている。

(5) 学習計画 (家庭科 4 時間 社会科 4 時間 全 8 時間)



(6) 本時案 (本時は全8時間中の8時間目)

① 目標




様々な情報の中から自分に必要な情報を選び出し、それを基に担任や自分の家庭の状況に合った商品を考え、選択することができる。

② 準備

牛乳パック

③ 学習過程

学習内容・学習活動	予想される学習者の反応	教師の支援																																								
<p>1 本時の課題をつかむ。</p> <p>課題：担任の家庭の牛乳購入メニュー：クリームシチュー 家族構成：4人 (本人・父・母・祖母)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・クリームシチューの材料は、じゃがいもと牛乳と… ・多くの種類の牛乳があるよ。この中から選ぶのか。 ・先生は何人家族なのだろう。 	<p>○家族構成などについて質問を受けることによって、商品選択の視点にすることができるようにする。</p>																																								
<p>あなたならどの牛乳を買いますか？</p>																																										
<p>2 自分ならどの牛乳を買うか情報を整理して考える。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>牛乳</th> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>パッケージ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>価格</td> <td>246円</td> <td>246円</td> <td>343円</td> <td>187円</td> </tr> <tr> <td>品質</td> <td>牛乳</td> <td>牛乳</td> <td>成分調整牛乳(特濃)</td> <td>乳飲料(低脂肪)</td> </tr> <tr> <td>産地</td> <td>山口県</td> <td>東京都</td> <td>岡山県</td> <td>山口県</td> </tr> <tr> <td>量</td> <td>1000mL</td> <td>900mL</td> <td>1000mL</td> <td>1000mL</td> </tr> <tr> <td>賞味期限</td> <td>12月10日</td> <td>12月8日</td> <td>12月7日</td> <td>12月9日</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> <td>キャップ</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	牛乳	A	B	C	D	パッケージ					価格	246円	246円	343円	187円	品質	牛乳	牛乳	成分調整牛乳(特濃)	乳飲料(低脂肪)	産地	山口県	東京都	岡山県	山口県	量	1000mL	900mL	1000mL	1000mL	賞味期限	12月10日	12月8日	12月7日	12月9日	その他		キャップ			<p>○情報を整理させる。</p>
牛乳	A	B	C	D																																						
パッケージ																																										
価格	246円	246円	343円	187円																																						
品質	牛乳	牛乳	成分調整牛乳(特濃)	乳飲料(低脂肪)																																						
産地	山口県	東京都	岡山県	山口県																																						
量	1000mL	900mL	1000mL	1000mL																																						
賞味期限	12月10日	12月8日	12月7日	12月9日																																						
その他		キャップ																																								
<p>3 課題についてグループ・全体で交流する。</p> <p>【商品選択の視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・価格 ・産地 ・品質 (脂肪分) ・環境 ・量 ・賞味期限など 	<ul style="list-style-type: none"> ・地元のものを買いたいな。 ・値段は安い方がいいかな。 ・見学で安全・安心に気をつけていると聞いた。Aかな。 ・Bはキャップが付いていて、あけるときに便利そうだけど捨てるのに困るかな。 	<p>○実際にパッケージを見て、商品選択の参考にできるようにする。</p> <p>○第3時で挙げた視点(商品の長所・短所)や工場見学で知ったことを基に考えるように促す。</p>																																								
<p>4 自分の家庭の場合について考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家族は濃い味が好きだから、Cにしようかな。 ・お父さんはいつも低脂肪だからDがいいかな。 ・わたしはこの2つで迷っているのだけどみんなはどう思う？ 	<p>○家族構成や自分、家族の好みを基に考えている子供を価値づけ、全体に広げていくようにする。</p> <p>○悩んでいたり困っていたりしたら周りにアドバイスさせる。</p>																																								

牛乳	A	B	C	D
パッケージ				
ねだん	246円	246円	343円	187円
種類別	牛乳	牛乳	成分調整乳	乳飲料
内容量	1000mL	900mL	1000mL	1000mL
気付いたこと				
課題① 選んだ牛乳 A	理由 きらら牛乳 ↓ 種類別で牛乳だし、まあまあ安いし、1000mLに入っているし、山口県の地産地消だから。			
班・全体 交流での 気づき	みんなそれぞれだった。栄養を考えている人もいた。			
課題② 選んだ牛乳 A	理由 飲んだことないから、飲んでみたいし、地産地消だから			

5 本時を振り返る。

・最初は値段の安さだったけど、友達の考えを聞いて、高くてもおいしいのいいと思ったよ。

○商品選択に際して、自分にとって大切にしている視点を確認させる。

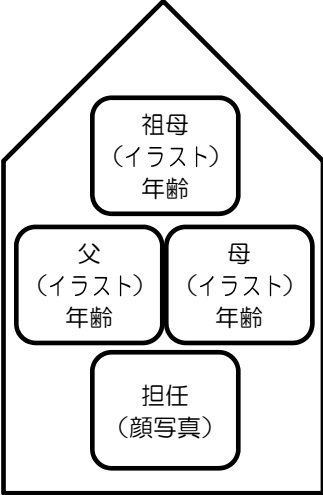
《板書計画》

めざそう買い物名人

あなたならどの牛乳を選びますか

クリームシチュー (写真)

クリームシチューの材料
・にんじん
・ブロッコリー
・じゃがいも
・ルー
・牛乳
など



家族についての情報

- ・味の好み
- ・脂肪
- ・値段など

牛乳	A	B	C	D
パッケージ	写真	写真	写真	写真
児童の気付き ・栄養 ・値段 ・量 ・産地 など				
課題①				
交流での気付き				
課題②				

本時の振り返り

- ・わかったこと
- ・考えたこと
- ・生活に生かしたいこと

めぞう買い物名人

名前

めあて

知りたいこと（1つだけ）

牛乳	A	B	C	D
パッケージ				
気付いたこと				
課題① 選んだ牛乳	理由			
班・全体 交流での 気づき				
課題② 選んだ牛乳	理由			

ふり返り

○家の人の考えはどうか？聞いてみよう！！

課題② 選んだ牛乳	理由
--------------	----

4 指導上の工夫

(1) 情報を基に自己選択する場の設定

購入の際には、商品の特徴や価値を見だし、選択・決定する力が必要とされる。そこで本時では、価格や産地、脂肪分などの牛乳に関する様々な情報から、自分が重視するものを選び出し、商品を選択する場を設定した。

(2) 学習と生活を結び付ける課題

担任の家庭の牛乳購入について考えた後、自分の家庭の場合について考える課題を設定した。また、授業で学習したことを家庭で再度考える課題を出すことによって、学習と生活を結び付けるようにした。

5 成果と課題

(1) 成果

① 社会見学の有効性について

本時では、担任の家庭及び自分の家庭でクリームシチューに入れる牛乳を選ぶという課題に取り組んだ。4種類の牛乳の中から、見学に行った工場の牛乳を選択する子供たちがいた。その子供たちは、「地産地消だから」、「工場の人が勧めていたから」、「やまぐちブランドだから」など、見学で見たことや聞いたことを理由として挙げていた。これは、社会見学で得た知識を授業で活用していることを表している。また、社会見学後のまとめの時間では、地産地消の意味やその効果についても考え、用語だけでなく、その言葉の意味を説明する知識も獲得することができた。これらのことから考えると、社会見学を行ったことは、子供が商品選択をする際の情報を増やすことに一定の効果があったと考えられる。

② 様々な情報や家庭の状況を基に商品を選択する力の育成について

牛乳には、価格、産地、成分など商品を選択する際の視点となる様々な情報がパッケージに記載されている。本時では、4種類の牛乳をグループごとに用意し、自由に手に取って見ることで自分に必要な情報を選び出すことが出来るようにした。それをワークシートに記入し、比較することで商品を選択する際の理由にした。子供たちは、それぞれの視点で情報を読み取り、ワークシートにまとめていった。どの子供も、自分なりの視点を持ち、購入する牛乳を選択することができた。普段はほとんど見ることのないパッケージを見ることで多くの気づきが生まれた。さらに、「これからパッケージをよく見たい」という生活につなげようとする発言もあり、情報を基に商品を選択する力の育成の一助とすることができたのではないかと考えている。また、意見を交流することで、大切にする視点や選ぶ牛乳は異なるということに気付くことができた。ある子供の授業後の振り返りの「みんなそれぞれの牛乳を選ぶかは違う」という記述はそのことを示している。

本時では、課題「①担任の家庭の牛乳を選ぶ」「②自分の家庭の牛乳を選ぶ」という2つの課題に取り組んだ。これは、担任と自分の家庭、つまり、家庭の人数や好み、年齢といった状況で選択が異なることに気付かせることをねらったのものであった。そのため、授業の中で、子供たちにどの牛乳を選ぶかを尋ねた。その結果が次項の表である。

表 牛乳別の選択した人数とその主な理由

課題「①担任の家庭の牛乳を選ぶ」「②自分の家庭の牛乳を選ぶ」

牛乳	A	B	C	D
課題①の人数	9	7	10	8
主な理由	・山口県産の牛乳 ・地産地消 ・工場おすすめ	・そそぎやすい ・「おいしい」と書いてある ・生乳100%	・水を抜いていてシチューにあいそう ・栄養たっぷり	・安い ・脂肪分が少ない
課題②の人数	13	10	7	4
主な理由	・飲んだことないから飲んでみたい ・5人家族だから安く多くの方がいい ・低脂肪はきれい	・飲みなれている ・家で飲んでいる	・とろみが出そう ・クリーミーでおいしい	・家族が好きな味 ・安い

課題①と②の違いについて、理由に興味深い特徴が表れた。課題①の理由として主に出てきたのは、産地や成分といった、その牛乳独自の特色であるのに対して、課題②では「飲みなれている」「家族が好き」といった、自分の家庭の状況に関することであった。これは、子供たちが、担任や自分の家庭の状況を基に牛乳を選択していることを表している。中には、「飲んだことがないから家族に勧めてみたい」という意見もあり、自分の家庭に思いを馳せている様子が伺えた。

③ 学習したことを生活につなげる

家庭科では、学んだことについて家庭で実践していくことが大切であると考え。そこで、本時で学習したことを家庭で再度考える課題を出した。具体的には、どの牛乳を選ぶかを家族（保護者）に聞くというものである（図）。「牛乳という種類別を必ず購入する」や「地元で作られているものを選ぶ」といったその家庭が大切にしている視点やこだわりが見られた。子供と家族で選んだ牛乳が異なる家庭もあり、家族が大切にしている視点を知るよい機会になったと感じている。

【図 家族が考えた課題の答え】

課題① 選んだ牛乳 C	理由 なぜなら水分だけをぬいていておいしいから。 でもちょっと高い
班・全体 交流での 気づき	しつなとを見ていた。 カルツウ おたし
課題② 選んだ牛乳 A	理由 遮光性パックで山口ブランドだから
①牛乳は成分がまちまちにしておき3つ ②どんなものをえらべようかかみかえろ。	
○家の人の考えはどうか？聞いてみよう！！	
課題② 選んだ牛乳 B	理由 AとBが生乳100%なので選んだ。値段も同じなので、飲むだけ 用途開めが簡単でこぼれにくいキャップのBを選んだ。

(2) 課題

「見て・聞いて・触れて学ぼう消費者教育事業」を活用した授業で社会見学を行い、販売・生産の工夫や企業の考え方を体験的に知ることによって子供の商品選択の際の情報を増やすことができたと考えている。一方で、課題として公教育における企業に対する見方・考え方の公平性が挙げられる。本事業で見学を行った店舗・工場はそれぞれ1社ずつである。牛乳工場では地産地消について学び、その考え方が大切だということを知ることができたが、子供にそれがすべてであり、見学に行った企業の牛乳が最もよいという価値観を与えてはならない。あくまで商品選択の際の視点の一つでなければならないのである。そのためには、社会見学で学んだことを特定の企業の事例としてではなく、一般化して考えることが必要であると感じた。同時に、販売者や生産者側の考え方を知るだけでなく、自分の商品選択が購買活動にどのような影響を与えるかといったことについても学び、消費者としての意識を高めることが重要であると考えている。

6 授業検討会での意見

(1) 指導案検討の際の意見

- 学んだことを生活につなげる必要がある。具体的な方法や手立てを考えたい。
- クリームシチューの材料を購入するという状況設定を例示し、それを基に児童に自分の家では何を選ぶか考えさせ、発表させる流れはどうか。
- 単元計画をフローチャートにして、社会科の部分と家庭科の部分とを分けるとよい。家庭科以外でも消費者教育ができることが示せる。
- 家庭科の授業だけでは難しいが、今回のように社会科と連携すると、生産者である企業の考え方と消費者である家庭の考え方の二つを比べながら学べる。別々に学ぶのではなく、一定の時期にまとめて学ばせることで学習の深まりという点から効果的になることが期待できる。
- 商品選択の視点について、社会見学で学んだことを基に自分が大事にしている視点を3つ程度児童に選ばせるとよい。こうすると、社会科と家庭科の教科横断的な指導になる。

(2) 授業実施後の意見

- 今日の児童たちのワークシートを見ると、子供たちの視点は「価格」が一番初めに書かれている。つまり、子供の価値観が「価格」に縛られているということである。ここに別の視点（地産地消、環境、健康、家族、持続可能性など）を加えるのが消費者教育になる。
- 児童のワークシートと板書が一致することが大事。45分の授業をもれなく、効率的に実施するために。また、板書と一致するワークシートを作成すると、ワークシートの説明不要になり、時間の節約にもなる。
- 牛乳パックの実物を出したインパクトはとても強かったと思う。

7 消費者教育アドバイザーの総評

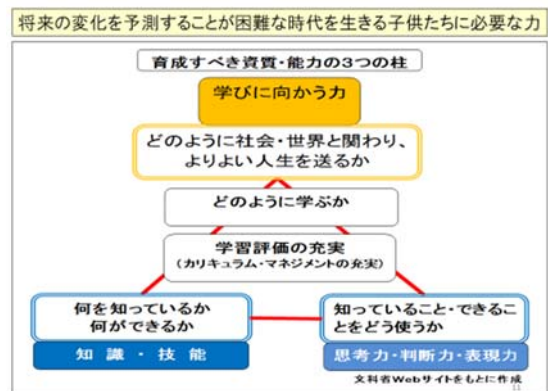
(1) 新学習指導要領で育む「資質・能力」と消費者教育

新学習指導要領（以下、「学習指導要領」という。）では、将来の変化を予測することが困難な時代を生きる子供たちに求められる資質・能力を三つの柱で整理して示しています（図1）。

これまでの指導は、教員が「何を教えるか」という点から授業を組み立てていましたが、これからは、「何ができるようになるか」という観点で、育成を目指す資質・能力を整理して、「どのように学ぶか」や「学びをどのように生かしていくか」の「学びに向かう力」を育成していきます。知識や技能の量ではなく、学びの質が重視されたこととなります。

では、消費者教育が目指す能力は、どのような能力でしょうか。消費者教育推進法では、次の2つを基本理念としています。

【図1】



- ①消費生活に関する知識を修得し、これを適切な行動に結び付けることができる実践的な能力
- ②消費者が消費者市民社会を構成する一員として主体的に消費者市民社会の形成に参画し、その発展に寄与することができる

この理念は、学習指導要領で育む「資質・能力」の三つの柱に重なる内容になっています。理念①には、「消費生活に関する知識」とありますが、それは「何を知っているか・何ができるか」ということで、「適切な行動に結びつけることができる」は、「知っていることをどう使うか」と重なります。理念②の「行動することで消費者市民社会の形成に参画」は「どのように社会・世界と関わるか」であり、「学びに向かう力」とも重なっています。

本実践は、身近な物である「牛乳」の選び方、買い方を理解し、購入するために必要な情報の収集・整理が適切にできると共に身近な消費生活をよりよく工夫できることをねらいとしています。複数の「牛乳」の商品情報を活用して考え、それぞれの子供にその子供なりの商品選択をさせました。

これまでの指導では、「牛乳」の選び方・買い方に関する「知識・技能」をまず調べたり取材したりして学び、その「知識・技能」を使って「牛乳」を選ばせていました。しかし、本実践は、複数の「牛乳」から選択する過程で「知識・技能」を身に付けさせています。

「いつもB牛乳。慣れているから。でもどこで生産された牛乳かを気にして選ぶ人がいた」、「これまでは、値段の安い牛乳にしていた。いろいろな種類があるので、使う目的に合わせればよい」、「どこの工場かなとか産地は？原料はどこから？を見て選ぶ人がいた」というように「牛乳」を選択させてその結果を話し合わせることで、商品選択に必要な知識や技能を身に付けています。また、様々な商品選択の視点への気付きは、これから実際の生活でどう生かしていくのかをノートに記述した子供も多かったです。

(2) 教科横断的な視点

教育課程とは、学校教育の目的や目標を達成するために教育内容を子供の発達や実態、地域の実情も踏まえて学校が組織した教育計画です。学習指導要領では、各学校が学校教育目標実現に向けた教育課程の編成と実施、評価、改善していくことを「カリキュラム・マネジメント」と呼び、「学習効果の最大化を図るカリキュラム・マネジメント」の側面として3つ示しています。

①教科横断的な視点 ②P D C Aサイクルの確立 ③教育内容と教育活動を効果的に組み合わせること

この中の「①教科横断的な視点」とは、どのような視点でしょうか。グローバル化や情報化をはじめとして変化の激しい時代には、特定の教科で習得した学びだけでは対応することは困難です。ですから、学習指導要領では、子供たちに必要な「資質・能力」を明確にし、教科間相互の連携を図ることができるようにしました。その理由は、それぞれの教科だけでは出せない教育効果を教科間相互の連携で更なる効果を発揮させるためです。限定された特定の教科の学びで学習内容の定着を図るということでなく、算数等に位置づく特定の教科の適用場面でもない、全く違った特定の教科の学びで汎用能力育てていくことが、この教科横断的な視点での学びです。汎用能力とは、現在、又は将来の社会生活で他者と協働しながら、主体的に問題を解決していくために学んだことを広くいろいろなことに用いていける力でもあります。

本指導では、5年生になるまでの学びを基に社会科で実施する店舗や工場見学の学習と家庭科での物の選び方・買い方の学習を意図的に同じ時期に学ばせています。それは、店舗や工場見学での体験的な学習を家庭科の学習で広くいろいろな商品を選ぶ力につなげていくためです。社会科が生産者や販売者の視点からの学びとすれば、家庭科は購入者、つまり消費者の視点からの学びになります。「生産者・販売者・消費者」の三者の立場の学びを同じ時期に位置付けたことで社会科見学だけで得られなかった、また家庭科だけでも得られなかった相乗的な学習効果が確認できました。

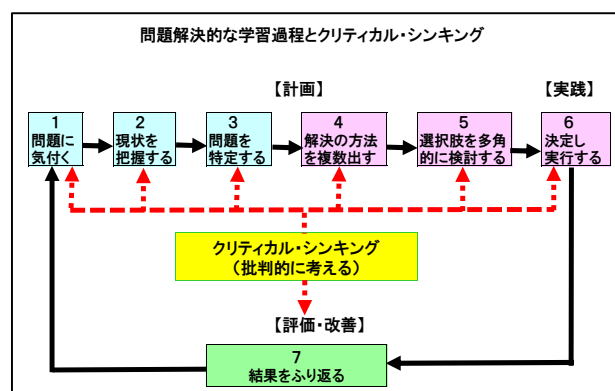
例えば工場見学の際には、「夏は牛乳の生産量が少ない。だからと言って値段をあげない工夫をしている。ぼくたちは安いといいけど、工場はもうかっているのか」、「牛が赤ちゃんを産むことで牛乳を出している。牛乳を買う時、牛が頑張っていると思って買わないとね」等の言葉が子供から聞こえてきました。消費者としての立場からの購入だけでなく、生産者や販売者の立場からの購入を意識できたことは、消費者教育の理念にもある「適切な行動に結びつける実践」や「消費者市民としての意識の育ち」につながっています。社会科の店舗や工場見学の体験的な活動と家庭科学習の相乗的な学習効果が確認できます。

(3) 「主体的・対話的で深い学び」で「考えさせる」

消費者教育は、子供を「よき思考者 (good thinker)」に育てる教育です。消費者教育で実現する「主体的・対話的で深い学び」は、問題解決的な学習を通して、批判的思考力（考える力）を培う学びでもあります（図2）。

子供の考えは、どうしても自己中心的な考えであったり、先入観や誤解があったりします。そのことに気付くためにも話し合いや交流を取り入れて自分の考えはこれでよいのだろうか、

【図2】



間違っていないだろうかと問い続けさせることが必要です、それがクリティカル・シンキングで批判的に考えさせることです。対話的で深い学びは、「考えさせる」指導をすることであり、その「考えさせる」指導が子供を「よき思考者」にすることにつながります。

では、子供を「よき思考者」とするためには、どうしたらよいでしょう。その一つは、社会で起きている問題の多くは、どれも解決策が一つではないのですから複数の解決策を出し合う、その中から自分にとってベターな解決策を選ばせる学習にしていきたいと思います。本実践でも「牛乳」という商品を選択させていますが、A牛乳を選んだらよいというのでもありませんし、B牛乳を選んだ子供が正しいというわけでもありません。解決策は一つではないのでそこからベターな商品選択を促しています。実際の生活につながりやすい問題を学習で取り上げると子供の中に「考える」必要性が出てきます。

次に問題に対する解決策や考えをノートに記述させます。そして、それを選んだ根拠（理由）も記述させるのです。これまでも子供の考えを話し合わせる学習は行われてきましたが、「考えさせる」指導では、その考えの根拠を話し合わせる必要があります。つまり、話し合いでは個々の子供の考えとその根拠を出させない限り「考える」子供にならないということです。「考えさせる」指導では、子供がまず根拠を見付けてから考えを決めると言ってもよいでしょう。考えの根拠がなければ発表はできないということの子供が身に付けたら、その子供が「考える」子供に育ったことであると共に「考えさせる」指導の効果があつたこととなります。

本実践での子供の選択は、4種類の牛乳すべてに分散しました。また、その選択の根拠も「脂肪を取りたくない家族がいるがカルシウムは取りたいから」、「地域の牛乳の工場を応援したい」、「小さいサイズの牛乳にする。牛のことを考えると無駄にできない」等の子供の発言や記述があり、対話や交流を通して、商品選択の視点や根拠に広がりが見られました。

体験的な活動である社会科の店舗や工場見学と家庭科の学習を教科横断的な視点で指導した本実践は、学校の教育課程の編成の工夫に加え、地域の人的・物的資源であるスーパーマーケットやコンビニエンスストア、そして地域の牛乳工場を活用した実践で、学習指導要領の「前文」で示された「開かれた教育課程」のあり方を実践しています。

「今日の見学受け入れは、どきどきの連続でした。これまで、受けたことがなかった質問が子供からたくさんあったからです。これから、わたしも勉強します」これは、牛乳工場見学の案内と説明をしてくださった担当者の言葉です。体験的な活動や教科横断的な視点での指導が子供を変容させていたことが担当者のこの言葉からも確認できます。

子供の学びを学校の中から、地域・企業・行政に開いた取り組みは、これまでも各学校で取り組んできましたが、子供の実態や学校の実情、学校教育のねらいを更に周りに理解してもらい、複数の教科の学びの相乗的な学習効果をねらった本実践の取り組みが広がり、つながっていくことに期待します。

◇ 社会見学の内容（下関市立小月小学校）





1 社会見学のねらい

- 牛乳を中心とした商品の売場の工夫、どのような牛乳が売られているか、スーパーとコンビニを比較するなど。
- 牛乳工場における製造工程での工夫、企業の考え方など。

2 社会見学の展開

小月小学校では、2回に分けて社会見学を実施した。

[第1回社会見学]

視 点	場 所	活 動
<p>○消費者のニーズに応じて売り上げを上げるために、お店の人がどのような工夫をしているのかを学ぶ</p>	<p>○アルク小月店 (スーパー)</p>  <p>○ファミリーマート山陽小野田植生インター店</p> 	<p>○売場の概要説明、生鮮食品コーナー、牛乳コーナー、商品の品質管理などについて見学</p>  <p>○売場の概要説明、牛乳の品揃え、コンピュータによる商品管理などについて見学</p> 

[第2回社会見学]

視 点	場 所	活 動
<p>○牛乳の製造過程での工夫や企業の考え方を学ぶ</p>	<p>○やまぐち県酪乳業株式会社本社工場</p> 	<p>○工場・商品の概要説明、牛乳の製造ラインなどを見学</p> 